

小児がんの長期フォローアップと 移行期医療

小児がん治療が進歩し、生存率が向上するとともに治療後の「晩期合併症」が問題となってきた。晩期合併症リスクを前もって知り、リスクに応じたフォローアップを受けることが重要である。

本講演では、Ⅰ.晩期合併症の増加 Ⅱ.フォローアップロス Ⅲ.フォローアップの標準化と支援ツール Ⅳ.成人期移行 の問題にわけ、小児がんの現状を説明する。

愛媛県立中央病院 小児医療センター長

講師 石田 也寸志 先生
(いしだ やすし)

プロフィール

1983年愛媛大学医学部卒、卒後国立がんセンターで研修を受け、抗癌剤薬剤耐性の研究と造血幹細胞移植に取り組む。2000年頃から小児がん患児・家族のQOLに関心を持ち活動を始める。2003年にSt. Jude 小児研究病院に留学し、2004年以降は、小児がん経験者の長期フォローアップをライフワークとして活動している。全国の小児がん治療終了後サバイバーシップ体制の確立を目指している。



日時：平成30年6月19日(火)18時～19時

場所：福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室

司会：菊田 敦 先生 (小児腫瘍内科)

参加無料／事前登録不要

補足

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
 - ◆ 本セミナーは、『東北次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
 - ◆ 本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。
- 【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL:024-547-1095 E-MAIL:ganpro@fmu.ac.jp
【次回予定】 次回は平成30年7～8月に開催予定です。詳細は後日別途にご案内申し上げます。